

2005年度海外研修生等助成事業 研修報告

アスペルガー症候群等の発達障害に関する 理解を深め、その対応法を学ぶ

静岡聖光学院 教諭 今村 二郎

アスペルガー症候群は子供達100人に1人程度いるといわれる、社会性の欠如が特徴の発達障害で、同年代の仲間との交流・接触到に支障をきたしたり、通常の指導方法が通じない場合が多い。私が担任した二人の生徒もこの症例に該当しており、対処法を探っていた。今回、アメリカとカナダでセミナーに参加し、アスペルガー症候群のより深い理解と対処法について、二人の世界的権威から直接学ぶ機会を得た。

キャロル＝グレイ女史は、ソーシャルストーリーとコミックストリップ＝カンパセッションという手法を編み出された。例えば、挨拶はしなければいけないと思こんでいる子供に、必ずしも全ての人や場面で挨拶しなくてもよいことを文章で読ませたり、あるいはカウンセリング時に人物とセリフからなるマンガを描きながら、人間関係の摩擦が少しでも解消するよう支援する手法である。アスペルガー症候群の子供達はいじめの対象になりやすいが、女史が対処法となる概念を挙げ、いじめは不可避ではないと述べた際には、参加者一同から歓声が上がった。

トニー＝アットウッド博士は、アスペルガー症候群の子供の感情のコントロールについて提案された。例えばどんな感情も「怒り」で表現する子供に感情を教えるため、俳優が400ほどの感情を表情で示したDVDを見せる等、興味深かった。特に感情の表出が乏しい日本では、アスペルガー症候群の子供は



トニー＝アットウッド博士に聞く

より困難な立場にあることが実感された。また博士は近年の症例増加の原因に、外的な環境の差による行動特徴の強化を挙げた。確かに遊び方の変化、子供の数の減少等、暖かい人間関係が育ちにくい現状では、共感性が乏しいアスペルガー症候群の事例が増えるのも当然だろう。

両氏から学んだ手法を、子供達が社会の約束事を効率的に学ぶ際の支援に役立てていきたい。アットウッド博士のDVDを授業で使用したところ非常に反響があり、授業後の感想からも、自分の感情を認識・表現する助けになったこと、文化の違いに目を向ける機会にもなったことが分かりとても嬉しかった。教育相談の担当者、また英語の教員として、今後もアスペルガー症候群や色々な問題を抱える子供達と向き合う際、今回の経験を生かしていきたいと思う。